

宇都宮市立若松原中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	51.5	54.5	56.1
	「粒子」を柱とする領域	56.2	62.2	61.7
	「生命」を柱とする領域	40.5	46.5	44.8
	「地球」を柱とする領域	30.7	36.7	37.3
観点	知識・技能	62.1	67.0	66.8
	思考・判断・表現	32.9	38.3	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			

※中学理科の調査は、CBTで実施されている。

※CBTの調査では、生徒全員に同じ問題が出題されるのではなく、公開問題10問(共通問題6問、実施日により指定された問題4問)と、非公開問題が16問出題されている。生徒一人が解く問題数は26問である。

※公開問題22問(共通問題6問、実施日により異なる問題16問)の調査結果を集計した値である。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○「webページの情報だけを信用してよいか」について判断し、その理由として適切なものを選択する問題では、正答率が9割を超えた。 ●評価の観点別にみた場合、思考・判断・表現に関する問題の正答率が低くなっている。	・実験や観察の結果から、「どんなことがわかるのか」「なぜそうなるのか」を考察させる場面を多く取り入れていく。グループ実験において、結果が何を意味するのかを生徒どうしで話し合わせることも有効であると考えられる。
「粒子」を柱とする領域	○一酸化炭素の性質を踏まえて適切な避難行動を選択する問題や、加熱を伴う実験において、実験器具の操作等に関する技能を問う問題は、正答率が9割を超えた。 ●身の回りの事象から生じた疑問を解決するための課題設定力を問う問題や、実験結果をモデルを用いて表現する問題での正答率が低くなっている。	・授業での学習内容及び日常生活の事象に関して疑問をもたせ、それをどのような方法で解決すればよいかを考えさせる機会を設けていく。 ・実験結果を文章や図、口頭で表現する際には、その実験結果が何を意味するのかを十分に理解させる必要がある。授業でモデルを扱う際に、「なぜこのように表現するのか」を掘り下げて説明したり、事象を図やモデルで表現させることで、理解力・思考力・表現力の育成を図っていく。
「生命」を柱とする領域	●体内の器官(小腸、肺)のつくりや、消化のはたらきなど、人間の体に関する設問の正答率が低かった。	・植物や人間の体のつくりに関する基礎的な知識が、十分に身に付いていないと考えられる。基礎的な事項をまとめ直した上で、観察や実験の結果と関連付けてとらえさせるなどの工夫が必要である。また、ICT機器を活用することで、視覚的に印象づけて理解させていく。
「地球」を柱とする領域	●4つの領域の中で最も正答率が低く、生徒の苦手意識が強いことがわかる。とくに、時間的・空間的な見方を働かせて地層の広がり表現する設問については、2割を下回る正答率だった。	・本領域においても、基礎的な知識の再整理が必要である。地層の観察などを実際に行うことは難しいが、岩石の標本やボーリング資料などの実物に触れさせることで関心を高めさせ、理解を促していきたい。

